

令和元年度イノベーションレクチャー 吉藤健太朗先生講演会アンケート結果

実施日：令和元年11月21日

講演会参加者114名
回答者92名(回答率80.7%)

問1 あなたの職種を教えてください。

医師	看護師	介護職員	医療技術職	事務職	労務職
15	35	3	16	6	0
その他	当院スタッフ以外				
6	11				

問2 本日の講演テーマは、あなたのニーズにマッチしていましたか。

大変マッチしていました	マッチしていた	どちらかといえばマッチしていた	どちらかといえばマッチしていない	あまりマッチしていない	全くマッチしていない	無回答
46	29	12	4	0	0	1

問3 本日の講演内容の満足度をお聞かせください。

大変良い	良い	どちらかといえば良い	どちらかと言えば良くない	あまり良くない	良くない	無回答
70	15	5	1	0	0	1

問4 講演を聞いてご自身に今まで足りなかつたことや今後変えていきたいことが見つかりましたか。

すごく見つかった	見つかった	どちらかといえば見つかった	どちらかといえば見つからない	あまり見つからない	全く見つからない	無回答
40	34	13	2	2	0	1

差しつかえなければその内容についてご記入ください。

また、本日の講演についてご意見、ご感想などありましたらお聞かせください。

・感動しました。治療以外にできることを考えようと思います。

・役割を持つということ。必要とされるということ。そのための準備をするということ。

・「あきらめなければなんとかなる」この言葉は今後生かしていきます。

・あきらめてしまう、人に信頼を感じられなくなる前に人生の可能性は拓けていることを実感しあう関係が大切だと思った。

人工知能ロボットではないOriHimeの意義を強く考えました。

・吉藤先生は初めて知りましたが日本にはすごい人がいるなと思った。病院は病気を受け入れるための動きが多いと思うがその先に素晴らしい世界が待っていると思えた。病院に入院している患者さんで孫の結婚式に出られなくて悲しんでいる人がいたのを思い出してOriHimeがあればいいなと思った。

・すごく刺激になった。

・自分の役割を見つけるまでにご苦労があったと思いますが強い意志を感じました。

・オリさん的大ファンです。実際にお話を聞いて嬉しかったです。

・何かで困っているなら、そんなものだと仕方ないと言ってあきらめず、何か改善できること・工夫できることはいかを考えること・実行することを、いきなり何か大きなことは成し遂げられずともまずは日常の中で身近なところから実践していきたいと感じました。

・がまんしないこと

- ・病気になっても障害が残ってもあきらめる必要がないことを入院中から話してあげたいと思う。
- ・生きていて楽しいことがまだまだありそうだと思えました。ありがとうございました。
- ・様々な困難をシステムを用いて乗り越えてゆくこと
- ・今まで考えたこともなかったアプローチ法を学ぶことができて有用だった。
- ・双向性の重要さを感じた。
- ・「出会いとあこがれ」が人を変えるという先生のお話にとても共感しました。この姿勢を持ち続けたいと思いました。
- ・とても素晴らしい話でした。仕事に生活に実践していきたいと思います。
- ・ものづくりをはじめ、ポリシーに感銘を受けました。ありがとうございました。
- ・「自分にはまだ早い」と思った。時間が長い。終わる時間を明確にしてほしい。予定などがあって困る。
- ・自分も人の顔を認識できず名刺をもらっても次会った時に誰かわからない。名刺をスキャンできる装置を開発とあったが同時に撮影しつつスキャニングできるとクラウドファンディングに参加したいと思った。
- ・リハビリ職としてALSのPt様と接する機会があります。「本人があきらめないこと」「周りがあきらめないこと」すごく大切なことですが簡単なことではないと実感しています。まずは自分自身があきらめずPt様1人1人の可能性を見つけられる、一緒に探せるセラピストになれるよう精進したいと思いました。
- ・利用者さんの声は聞いて既存の中であるかないか、できるかできないかを考えてしまいがちなのですが「ない」で終わらせずあきらめず考える、つなげるを再度思い直させてもらいました。ありがとうございました。
- ・未来に希望を抱けるような内容でハッピートークさせられました。私も何かできることを考えていきたいと思います。
- ・身体が思うように動かなくなったことで、あきらめたきりになっている方達の希望を引き出していくことを強く感じました。どんなことで困っているかきちんと確認していきたいと思います。
- ・自分の生きている意味、今後の人生について何をしていきたいのか考えさせられる講演でした。
人の役に立ちたいという意識が芽生えた。人生あきらめないことが重要であると感じた。
- ・うまく言えませんが自分の考え方や、やってきたことは間違っていなかつたのかなと思いました。
周りに理解してもらえないことが多々ありますがこれからも自分の気持ちを変えずに支援に取り組んでいきたいと思います。
- ・“できない”ではなく“できるようにするにはどうしたらよいか”を考えて実践することで世の中のためになるユーモアを忘れずやり続けることが大切なのだと、すばらしい講演でした。
- ・人と人の間。心が自由であれば何でもできるしどこにも行ける。心に響きました。
- ・自分の過去の辛かった思い出やコンプレックスを認めるだけでなく、それをうまく活かそうと発想転換や努力を続けてきたことに感銘を受けた。
- ・人と人がつながれば無限の可能性があり、それを表現するためにOriHimeのようなヒューマンインターフェイスが活躍できることがとても役立っている 人生に満足できることがすばらしい。
- ・人の可能性
・「ロボット」と聞いただけで気嫌いしていました。人中心のロボット、あきらめない気持ちの大切さを涙を流しながら聞きました。吉藤先生に感謝です。
- ・当たり前と思っている中に解決しなければいけない(できるかもしれない)問題点がある。そういう感性を大切にしたい。
- ・あきらめないこと。「あつたらいいな」を形にするためのひらめきが素晴らしい。
話が分かりやすくおもしろかったです。ありがとうございました。

問5 今後、開催して欲しい講演会・研修会などありましたらお聞かせください。

島根大学 伊藤先生の視線入力について

ホリエモンによる「医療の視点から日本の未来について」